

基礎基本を重視した短時間の実習指導者研修の効果

The Effects of Short Trainings for Clinical Instructors with Emphasis on Basic Fundamentals

藤本 美由紀¹⁾ 丹 佳子¹⁾ 矢田 フミエ¹⁾ 吉兼 伸子¹⁾

要旨

本学で開催した基礎基本を重視した短時間の実習指導者研修の効果を検討するため、受講者40人に質問紙調査を実施した。研修の目的は「実習指導経験が浅い実習指導者あるいは教員が実習指導の重要性と方法を理解することができ、すぐに活用できる知識や技術を学ぶことで実習指導に対する意欲・関心を高めることができる」である。研修内容は、実習指導の基礎基本である「学生理解」を中心に実習指導者の戸惑いや困難を解決する4つの講義（各1時間）と「まとめ・質疑応答」（30分）である。調査の結果、受講者の約8割が「8割以上理解できた」、ほぼ全員が「今後に活かせる」と回答し、教育未経験者の約7割が「教育に携わりたい」と回答した。自由記述の分析では「新たに知ったこと」71コード、6カテゴリ、「これからやってみようと思うこと」73コード、6カテゴリが形成された。これらの結果から、研修目的を達成することができ一定の効果を認めることができた。

キーワード：臨地実習、看護教育、短時間、研修、評価

Abstract

A questionnaire survey was administered to 40 students to examine the effects of short trainings that were given at this university for clinical instructors with emphasis on the basic fundamentals. The objective of these trainings is to “allow clinical instructors and faculty members with limited experience providing clinical instructions to understand the importance and methods of clinical instruction, as well as learn knowledge and techniques that can be quickly deployed, thereby heightening their desire and interest in providing clinical instructions.” The training consists of four one-hour lectures centered on “promoting student understanding,” which is one of the basic fundamentals of clinical instruction, to resolve any perplexities and difficulties experienced by the clinical instructors, as well as a 30-minute summary Q&A session. According to the survey results, roughly 80% of the respondents indicated that they “understood 80% or more of the contents,” and nearly all the respondents indicated that they “can leverage what they learned in their work,” and nearly 70% of those without teaching experience indicated that they “wish to become involved in education.” An analysis of the free descriptions from the respondents uncovered 71 codes across 6 categories for “things they newly learned,” and 73 codes across 6 categories for “things they wish to newly try.” These results showed that the training objective was achieved and a certain level of effect was observed.

Key words : clinical practice, nursing education, short, training, evaluation

1) 山口県立大学看護栄養学部看護学科

I はじめに

看護学臨地実習における指導者（臨床現場の看護師、教育現場の教員・実習助手）は、看護学臨地実習において学生の意欲を高め、学習目標到達のための支援を行う重要な役割を担う¹⁾。そのため指導者は実習指導に関する講習を受けることが「看護師等養成所の運営に関する指導ガイドライン」²⁾に示されている。しかし、県や厚生労働省が行う講習は長時間を要するものが多く、人的余裕がない臨床現場や教育現場の指導者は、長時間の講習は受講しづらい。所属施設の状況や病棟スタッフ数の余裕のない場合には、院内の短時間研修しか受けずに（実習指導者講習会を受けずに）教育に携わっている新人指導者も少なくない³⁾。講習未受講者は必要な知識を得ないまま手探りで試行錯誤を重ねて指導を行っているため、指導に対する戸惑いや困難感を感じており自信を持ちにくい⁴⁾。

この問題を少しでも解消すべく、短時間（4時間）で実習指導の基礎を学ぶことができる研修として、令和3年度山口県立大学キャリアアップ研修「看護学臨地実習指導のABC—はじめて実習指導に携わるあなたへ：実習指導が楽しくなるヒント」を開催した。これまでこのような短時間の実習指導の研修会の効果は報告がない。そこで、本研究では、本研修の効果と課題を明らかにすることで、短時間の実習指導者研修の有用性について検討することを目的とした。

II 方法

1. 対象および調査方法

1) 調査対象と実施方法のアウトライン

調査対象は令和3年度山口県立大学キャリアアップ研修「看護学臨地実習指導のABC—はじめて実習指導に携わるあなたへ：実習指導が楽しくなるヒント」の受講者40人である。

アンケートは研修終了後に研修会場で配布し受講生に記入を依頼し、研修会場に設置した回収箱により回収した。調査時期は2021年4月であった。

2) アンケート調査の内容

アンケートの内容は、属性（所属、臨床経験年数、看護師としての実習指導経験年数、教員としての実習指導経験年数、実習指導に関する講習受講経験の有無と種類）と受講者による研修評価（理解度、難易度、満足度、活用可能性、看護教育に対す

る意欲）、「実習指導に関することで日頃困っていること、悩んでいること」「新たな知識・視点：本研修を受けて新たに知ったこと・学んだこと」「本研修を受けて得た学びをふまえ、これから実習指導としてやってみようと思っていること」「実習指導においてこれまでやってきたことで、本研修を受けてこれでいいんだと思えたこと」「もっと知りたいこと、新たな疑問」に関する自由記述である。

属性のうち臨床経験年数、実習指導経験年数については年数を数字で記入してもらい、「実習指導に関する講習受講経験の有無と種類」のみ「1.実習指導者養成講習会（6か月）※厚生労働省が認定する県主催の講習会、2.看護教員養成講習会（8か月～1年）※厚生労働省が認定する県主催の講習会、3.その他の講習会、4.受講経験はない」から選択してもらった。選択肢「3.その他の講習会」を選択した場合は、講習会名称と期間を自由記述で求めた。属性以外の質問はすべて自由回答で、受講者の考えを自由に記述するよう依頼した。

受講者による研修評価における理解度はパーセントによる記入とした。難易度・満足度・活用可能性は5件法でたずねた。看護教育に対する意欲は、実習指導など看護教育に携わってみたいか否かについてたずねた。

2. 研修の内容

1) プログラム内容（表1）

研修会の全体目標は「実習指導経験が浅い実習指導者あるいは教員が実習指導の重要性と方法を理解することができ、すぐに活用できる知識や技術を学ぶことで実習指導に対する意欲・関心を高めることができる」である。

実習指導者の戸惑いや困難を解決する内容を含む4つの講義で構成した。先行研究で示された、実習指導者が感じる肯定的に学生の姿勢・態度を見るのが難しいといった学生理解に関する困難感や実習指導をし始めた指導者の自身の指導に自信がない、学生の個人差に応じた対応ができないなどの実習指導者の力量に関する困難感^{4) 5)}を解決する内容を取り入れ、実習指導において基礎基本となる「学生理解」を中心に4つの講義で構成した。

4つの講義のタイトルは「看護学臨地実習指導：基本のキ（講義1）」、「臨地実習における学生との対話のコツ—振り返りを促すリフレクションスキ

表1 研修会のプログラム（講義の目標と内容）

	タイトル	目標	主な内容
講義1	看護学臨床実習指導 基本のキ	・実習指導者の必要性と 実習指導の基本が理解 できる。	・実習は科目の学習目標達成をめざす授業 ・臨床実習における指導者の必要性 ・経験の意味づけ、意欲向上への働きかけ ・学生の話聞くことの重要性 ・学生の個性に配慮する
講義2	臨床実習における学生との 対話のコツ ―振り返りを促す リフレクションスキル―	・リフレクションの重要性 と効果が理解できる。 ・リフレクションを意識し た発問の方法が理解で きる。	・リフレクションの概念と理論的背景、看護教育 への導入、リフレクションの定義・前提 ・5つのリフレクションスキル、リフレクションを 活かすための鍵、指導者のよき「発問」が学修者 の考えを引き出す ・学生のリフレクションの傾向、教員の発問の傾 向、気づかない学生への対応 ・リフレクションを意識した発問をすることによ る学生の変化、リフレクションを促進させるため には
昼休憩			
講義3	第一線の実習指導者から 学ぶ実習指導のヒント	・実習指導における困難 感解消の方法が理解で きる ・最近の学生の特徴が理 解できる。 ・実習指導の評価の必要 性と方法が理解できる。	・ヒント集の内容 ・困難感解消のためのヒント イマドキの学生が理解できない/学生への関わり 方がわからない/誰に相談してよいかわから ない/スタッフの協力が得られない/効果的な指 導方法がわからない/指導助言に自信がない ・実習指導の評価
講義4	対人関係の構築を 苦手とする学生への 実習指導のポイント	・対人関係を苦手とする 学生の特徴と合理的配 慮が理解できる ・実習指導における具 体的な支援方法が理解で きる。	・対人関係を苦手とする学生とは ・合理的配慮の考え方について ・発達障害の種類と実習における特徴、支援の 方向性 ・基本的な対応、何をどう褒める、何をどう叱 る、基本的な認知特性への対応
まとめ・質疑応答			

ルー（講義2）」、「第一線の実習指導者から学ぶ実習指導のヒント（講義3）」、「対人関係の構築を苦手とする学生への実習指導のポイント（講義4）」である。各講義時間は1時間であった。これらの講義の後に「まとめ・質疑応答」の時間を30分程度設けた。

講義ごとに定めた目標（表1）は以下のとおりである。

講義1の目標は「実習指導者の必要性と実習指導の基本が理解できる。」、講義2の目標は「リフレクションの重要性と効果が理解できる。」、講義3の目標は「実習指導における困難感解消の方法が理解できる。最近の学生の特徴が理解できる。実習指導の評価の必要性と方法が理解できる。」、講義4の目標は「対人関係を苦手とする学生の特徴と合理的配慮が理解できる。実習指導における具体的な支援方法が理解できる。」とした。

講師は、教育活動として実習指導を行い、かつ実習指導に関する研究を行っている大学教員である。各研究成果に基づいて初心者向けに講義内容を構成した。また、講義3、4では研究成果として作成した冊子^{6) 7) 8)}も用いた。

2) 研修会の実施方法

本研修は山口県立大学地域共生センターが専門職のために行っているキャリアアップ研修の1つとし

て2021年4月に山口県立大学内で対面で開催した。対象は看護師免許所有者で教育に関心があり、将来、教育に携わりたい人。または、看護学校・看護系大学等、看護基礎教育機関において経験の浅い教員・実習助手（予定者含む）である。

3. 倫理的配慮

対象者への倫理的配慮としては、①個人情報保護の方法等（個人の特定に繋がる情報があれば削除し、電子化したデータを使用する）、②研究の概要（短時間の研修の有用性と課題を明らかにして論文・学会で発表する）、③問い合わせ先をアンケート内に記し、同意の意思をアンケート上で確認した。本研究は、公立大学法人山口県立大学生命倫理委員会の承認（承認番号2021-1号）を得て行った。

4. 分析方法

回答者の「臨床経験年数」「看護師としての実習指導経験年数」「教員としての実習指導経験年数」、研修評価における「理解度」は平均値と標準偏差を算出した。その他の項目は割合を求めて分析に使用した。

自由記述の分析は、各回答の記述全体を文脈単位とし、それぞれの質問に対する回答を含むものを文脈単位から分割し記録単位とした。このとき、アン

ケートの質問に対応していないものや意味不明となるものは除いた。記録単位の分類は、意味内容の類似性に基づき分類し、その分類を忠実に反映したカテゴリーネームをつけた。コード生成からカテゴリーの生成までの分析過程において研究者間で分析内容を繰り返し確認し、合意して進め、分析結果の信頼性、妥当性を担保した。

自由記述「実習指導に関することで日頃困っていること、悩んでいること」を<受講者のニーズ>としてとらえ、自由記述「新たな知識・視点：本研修を受けて新たに知ったこと・学んだこと」、「本研修を受けて得た学びをふまえ、これから実習指導としてやってみようと思っていること」、「実習指導においてこれまでやってきたことで、本研修を受けてこれでいいんだと思えたこと」の3項目を<研修の効果>としてとらえた。さらに、「もっと知りたいこと、新たな疑問」を<研修の課題>としてとらえ分析した。

また、<受講者のニーズ>としてとらえた「実習指導に関することで日頃困っていること、悩んでいること」の分析で得られた<学生理解><実習指導方法><連携>の3つの領域に基づき、<研修の効果>としてとらえた「研修を受けて、新たに知ったこと、学んだこと」「研修を受けて、これから実習指導としてやってみようと思っていること」「研修を受けて、これまでやってきたことで、これでいいんだと思えたこと」と<研修の課題>としてとらえた「もっと知りたい内容、新たな疑問」の分析を行った。

Ⅲ 結果

1. 回答者の属性と実習指導に関する講習受講経験 (表2)

39人から回答があり、すべて有効回答であった(有効回答率97.5%)。

回答者の所属は病院が13人(35.1%)、教育機関が23人(62.2%)であった。臨床経験年数は12.2±7.76年、看護師としての実習指導経験は2.5±3.80年、教員としての実習指導経験は2.6±3.81年であった。

実習指導に関する講習を受講したことがない人は26人(72.2%)、ある人は10人(27.8%)であった。受講したことがある研修は、実習指導者講習会6人(60.0%)、看護教員養成講習会1人(10.0%)、その他(1日程度の研修他)が3人

表2 回答者の属性と実習指導に関する講習受講経験 (n=39)

属性	人(%)	n
所属		
病院	13 (35.1)	37
教育機関 (内訳)	23 (62.2)	
大学	12 (32.4)	
看護専門学校	3 (8.1)	
准看護師学校	2 (5.4)	
高等学校専攻科	1 (2.7)	
高等学校	5 (13.5)	
その他	1 (2.7)	
臨床経験年数(年)		
平均値±標準偏差	12.2 ± 7.76	36
看護師としての実習指導経験(年)		
平均値±標準偏差	2.5 ± 3.80	29
教員としての実習指導経験(年)		
平均値±標準偏差	2.6 ± 3.81	31
実習指導に関する講習受講経験		
なし	26 (72.2)	36
あり	10 (27.8)	
(内訳)		
実習指導者講習	6 (60.0)	10
看護教員養成講習	1 (10.0)	
その他	3 (30.0)	

(30.0%)であった。

2. 受講者による研修評価と看護教育に対する意欲 (表3)

研修の理解度は83.7±9.82%であった。80%台が12人(40%)、90%台が13人(43.3%)、100%が1名(3.3%)で、80%以上と回答した人は26人(86.6%)であった。研修の難易度は「非常に易しい」が1名(2.6%)、「易しい」が4名(10.5%)、「ちょうど良い」が31名(81.6%)、「難しい」が2名(5.3%)であった。研修の満足度は「非常に満足」が14名(36.8%)、「満足」が22名(57.9%)、「普通」が2名(5.3%)で、「不満」「非常に不満」と回答した人はいなかった。研修の活用可能性は「非常に活かせる」が23名(60.5%)、「まあ活かせる」が14名(36.8%)、「どちらともいえない」1名(2.6%)で、「あまり活かせない」「全く活かせない」と回答した人はいなかった。今後、実習指導など看護教育に「携わりたい」と回答した人は13人(76.5%)で、「どちらともいえない」は4人(23.5%)で、「携わりたくない」はいなかった。

表3 受講者による研修評価と看護教育に対する意欲

	人(%)	n
理解度(%)		
平均値±標準偏差	83.7 ± 9.82	30
60パーセント	2 (6.7)	
70パーセント	2 (6.7)	
75パーセント	1 (3.3)	
80パーセント	9 (30.0)	
85パーセント	3 (10.0)	
90パーセント	8 (26.7)	
95パーセント	4 (13.3)	
100パーセント	1 (3.3)	
難易度		
非常に易しい	1 (2.6)	38
易しい	4 (10.5)	
丁度よい	31 (81.6)	
難しい	2 (5.3)	
非常に難しい	0 (0)	
満足度		
非常に満足	14 (36.8)	38
満足	22 (57.9)	
普通	2 (5.3)	
不満	0 (0)	
非常に不満	0 (0)	
活用可能性		
非常に活かせる	23 (60.5)	38
まあ活かせる	14 (36.8)	
どちらともいえない	1 (2.6)	
あまり活かさない	0 (0)	
全く活かさない	0 (0)	
看護教育に対する意欲:教育に携わりたいか(看護教育未経験者のみ)		
はい	13 (76.5)	17
いいえ	0 (0)	
どちらともいえない	4 (23.5)	

3. 実習指導者に関することで日頃困っていること・悩んでいること (表4)

＜受講者のニーズ＞としてとらえた「実習指導に関することで日頃困っていること、悩んでいること」の分析で得られたカテゴリーは、《学生理解》《実習指導方法》《連携》の3つの領域に分類された。以下3つの領域を《》でカテゴリーを【】で示す。

＜受講者のニーズ＞とした「研修前に実習指導者に関することで日々困っていること・悩んでいること」は、コード総数は63、それらより19サブカテゴリー、9カテゴリーが創出された。

《学生理解》は30コード(47.6%)と最も多くのコードから構成され、【限られた時間の中でアドバイスを伝えても指導が伝わらない】11コード(17.5%)【学生理解及び学習状況把握の困難】8コード(12.7%)【学生のコミュニケーション及び信頼関係構築に不安がある】6コード(9.5%)【学

生のやる気がみえず、モチベーションが低い】5コード(7.9%)の4カテゴリーが抽出された。

次に多かったのは、《連携》で、18コード(28.6%)であった。【様々な制約の中で、臨床と教育の連携を取る困難さ】12コード(19.0%)【教員間の教育方針や内容の連携不足】4コード(6.3%)【臨床指導者とスタッフの連携困難】2コード(3.2%)の3つのカテゴリーで構成された。連携としては臨床と教育、教員間、臨床スタッフ間の連携がそれぞれ困難感として上がっていた。

《実習指導方法》は、コード数15コード(23.8%)と最も少なかった。【指導方法や指導の内容に自信がない】11コード(17.5%)【効果的な振り返りができていない】4コード(6.3%)の2カテゴリーが抽出された。

4. 研修を受けて、新たに知ったこと、学んだこと (表5)

＜研修の効果＞として分析した「研修を受講して、新たに知ったこと、学んだこと」は、72のコードが得られ、それらより、9つのカテゴリーと19のサブカテゴリーが抽出された。

《学生の理解》は16コード(22.2%)で、2つのカテゴリーが抽出された。【学生の思いや感情、特徴の理解に関する知識の獲得】10コード(13.9%)、【学生との関係構築とその重要性に関する知識の獲得】6コード(8.3%)であった。

《実習指導方法》は55コード(76.4%)で、4つのカテゴリーが抽出された。【学生の振り返りを支援し、学びを深める方法に関する知識の獲得】30コード(41.7%)、【学生のやる気を高め、実習しやすい環境を作る方法に関する知識の獲得】11コード(15.3%)、【対人関係が苦手な学生への関わり方に関する知識の獲得】10コード(13.9%)、【指導評価とその重要性に関する知識の獲得】4コード(5.6%)であった。

《連携》は1コード(1.4%)、【実習指導者と教員の連携の重要性に関する知識の獲得】であった。

5. 研修を受けて、これから実習指導としてやってみたいこと (表6)

＜研修の効果＞とした「これからやってみようと思うこと」の分析は、73のコードが得られ、それらより7つのカテゴリーと14のサブカテゴリーが得られた。

表4 実習指導者に関することで日頃困っていること・悩んでいること

領域	n	%	カテゴリ	n	%	サブカテゴリ	n	%	内容例
学生理解	30	47.6	限られた時間の中で、アドバイスを伝えても指導が伝わらない	11	17.5	指導やアドバイスを素直に聞いてもらえず伝わらない	7	11.1	指導したことを学生が素直に受け入れることができず、言い訳が多く、看護実践ができない時などどのように対応するか悩む
						実習指導に対して、時間的に制約がある	2	3.2	実習でとにかく忙しい中関わるので、看護師がしていることを見てほしいと伝えてもなかなか応じてくれないことがある
						臨床と実習の熱量やケア認識の差がある	2	3.2	学生の熱量と教育側の熱量の違いから、相互がギクシャクしてしまうこと
			学生理解及び学習状況把握が困難	8	12.7	学習状況の把握困難	4	6.3	学習不足、知識不足の学生に実習を行いながらどのように不足を補うか学生の力量を見極めるのが難しい
						学生理解が困難	2	3.2	実習指導現場の学生理解
						学生のレイビネスによる指導が難しい	2	3.2	看護過程の展開で学生にどの程度までを求めたらよいか、学生のレイビネスにより異なる その加減が日々難しいと感じる
			学生とのコミュニケーション及び信頼関係構築に不安がある	6	9.5	個々の学生のコミュニケーションの取り方が難しい	4	6.3	学生とのコミュニケーションのとり方、コミュニケーションがとりにくい学生さんへの対応
						期間や環境の制約内での信頼関係の構築困難	2	3.2	短期間でどのように信頼関係を築けばよいのか
			学生のモチベーションが低く、やる気がみえない	5	7.9	学生のモチベーションが低く、やる気がみえない	5	7.9	看護に興味がなく、ただその日が過ぎれば良いと考えている学生（指導者からできることは提案されている）への対応。やる気のない学生がいる
			実習指導方法	15	23.8	指導方法や指導内容に自信がない	11	17.5	指導の個性と対応が困難
自分の指導に自信が持てない	4	6.3							自分自身の看護に自信がないので、きちんと教えることができるか不安です。臨床経験年数が少なく、指導や実習生の関わりに自信がない。学生が求める指導ができるのか不安です
指導の有効性が判断できない	2	3.2							今の実習指導が学生にとって有効か、判断できない
効果的な振り返りができていない	4	6.3				効果的な振り返りができていない気がする・会話（学生の思い）の引き出し方がよくわからない			
連携	18	28.6	様々な制約の中で、臨床と教育の連携を取る困難さ	12	19.0	臨床と教員の連携の困難感	8	12.7	病院や病棟によって臨床指導者の関わりが異なるので教員がどう実習指導を依頼したらよいか迷う
						求めている目標（教育）求めているケアレベル（臨床）差がある	2	3.2	実習目標の共有はしているつもりですが、どんだん目標値を上げられ、引き戻すのが大変です
						臨床と教育の指導内容の食い違い	2	3.2	教員と看護師の言うことが違うので困るという学生への対応
			教員間の教育方針や内容の連携不足	4	6.3	教員により指導が異なる	3	4.8	他の指導教員の教育法が分からないことがあります。職場の人間関係上むずかしいこともあります
			臨床指導者とスタッフの連携困難	2	3.2	病院への気兼ね	1	1.6	「病院に迷惑をかけてはいけない」と学生を監視する様な実習指導となっている風潮がある
臨床指導者とスタッフの連携困難	2	3.2	臨床指導者とスタッフの連携困難	2	3.2	職員間の実習指導に対する理解・認識や指導能力の差・指導Ns以外のスタッフの協力が得られない（得にくい）こと			
合計						63	100		

表5 新たに知ったこと

領域	n	%	カテゴリ	n	%	サブカテゴリ	n	%	コード例
学生理解	16	22.2	学生の思いや感情、特徴の理解に関する知識の獲得	10	13.9	学生の話しをよく聞き思いや感情を把握することに関する知識の獲得	7	9.7	学生と一緒にいる場面を増やし、しっかり話を聞き理解する 患者さんや家族の方たちと関わる時と同じように、学生の事を理解し話をしっかりときくことでよりよい指導を行える 学生の感情や思いを捉えて進めていく事が大切だと学んだ
						学生の特徴理解に関する知識の獲得	3	4.2	学生は常に緊張しているし、…最初から心を聞いていない 学生は失敗体験を話さない、話せない事が多いと思う
実習指導方法	55	76.4	学生との関係構築とその重要性に関する知識の獲得	6	8.3	学生との関係構築とその重要性に関する知識の獲得	6	8.3	指導しようとする前に、学生との人間関係の構築が大切だと学んだ フォローをしつつ話し合えるような関係性を築きたいと思いました 自分の行動がバワハラになっていないか、気をつける 学生との関わり方で、人としてあたり前な接し方で良いんだと思った
						リフレクションの定義と効果、指導方法に関する知識の獲得	19	26.4	リフレクションスキルによる指導方法を具体的に知ることができた リフレクションの効果的な導入、場面についてわかった リフレクションが自己効力感につながる リフレクションの大切さ
						学生に対する発問の意義方法に関する知識の獲得	6	8.3	次のアクションにつなげるための関わりが発問が大切と学んだ 質問と発問の違い
			学生の振り返りを支援し、学びを深める指導方法に関する知識の獲得	30	41.7	学生の経験の意味づけを行い学びを深める方法に関する知識の獲得	5	6.9	説明や指示をしたくなることを少し抑え気味にする 実習は指導者が学生に合った事象を切りとり、学びに変えていくということ 意味づけできるよう支援することが指導者の役割
						学生自身がやる気高める方法に関する知識の獲得	6	8.3	学生の行動の振り返りではなく、思考や感情を省察する 上手く認め意欲を高めるように努める それ（学生のやる気）をサポートすることはできる
			学生のやる気高め、実習しやすい環境を作る方法に関する知識の獲得	11	15.38	学生が実習しやすい環境を作る方法に関する知識の獲得	5	6.9	伝えるだけで終わりではなく、学生自身の意識変化をもたらすことができるよう導く。 学生が実習しやすい環境を作るための配慮や工夫がある 学生の目標を知る 改めて実習指導をするにあたり基本的なことに注意する
						発達障害や対人関係が苦手な学生への関わり方に関する知識の獲得	10	13.9	対人関係を苦手とする学生への具体的な指導方法 個性のある学生さんへの接し方や対処方法を知ることによって楽になった 発達障害のある学生に対して実習や生活の中でどのように関わったらよいか（声かけ、サポートの仕方など） 学生の特性別の関わりを再確認できた 自分の育ってきた環境ではなく、相手に合わせた指導方法を検討していく事が必要である
			指導評価とその重要性に関する知識の獲得	4	5.6	指導評価とその重要性に関する知識の獲得	4	5.6	学習成果にかかわる評価だけでなく、教育者も教授活動評価が必要であると学べた。 指導しようとする前に、…自身の振り返りが大切だと学んだ
			連携	1	1.4	実習指導者と教員の連携の重要性に関する知識の獲得	1	1.4	実習病棟（指導看護師）との調整や情報交換の大切さを改めて知った
			合計						72

表6 これから実習指導としてやってみようと思っていること

領域	n	%	カテゴリ	n	%	サブカテゴリ	n	%	コード例			
学生理解	18	24.7	学生の思いや個々の状況を理解する	13	19.1	学生の思いや考えをよく聞く	8	11.0	それぞれの学生の思いや考えを聞く 学生の話をよく聞いて、まずは学生自身を知る ケアの根拠をタイムリーに確認していく 学生とのかかわる時間が短い中で学生の思いにも寄り添いたい			
						学生の特性や個々の状況を理解する	5	6.8	学生個々の状況や個性を理解する 今どきの学生をもう少し理解して指導してみたい			
			指導者から学生に話しかけ信頼関係を築く	5	6.8	指導者から学生に話しかけ信頼関係を築く	5	6.8	学生との人間関係を構築する 指導者からまずは学生へ話しかけてみて話しかけやすい指導者を目指したい			
実習指導方法	47	64.4	意図的な発問を行い、学生の振り返りと経験の意味づけを支援し、学びにつなげる	20	27.4	発問し、学生の学びにつなげる	6	8.2	質問が多くなりがちなので意識して発問できるようにしたい 指導者がすべて助言するのではなく、発問することで、学生に気づきを与え、意識や価値観、行動変容につなげる			
						リフレクションを実践する	6	8.2	学生のリフレクションを促進させるためのアプローチ リフレクションをやってみて学びを深めたい			
						学生の経験から意図的に意味づける	5	6.8	学生の経験を意味づける 意識して経験の意味付けとなるような声かけをする			
						学生の振り返りを支援する	3	4.1	次につなげられる学びとなるような振り返りを意識する 学生に一日での印象的なことをたずね、それを振り返る支援をする			
						学生の意欲が向上するように支援を行う	7	9.6	学生のやる気スイッチを一緒に探し、教育する 学ぶ意欲を引き出し支援する			
			学生の意欲が向上し、実習が良い経験になるよう支援する	10	13.7	学生の意欲が向上し、実習が良い経験になるよう支援する	3	4.1	学生が良かったと思える実習になるよう支援する	3	4.1	学生が良かったと思える実習になるよう、指導する 実践できた、できなかったということにとらわれず、学生の自己肯定感が高まるような関わりをしたい
									学生の個別性に合わせた指導を行う	9	12.3	学生の強みを活かした看護ができるように支援する 学生の学習レベルに応じた支援をする 目標や学生の状況に応じた患者選定を行い支援する
									発達障害や対人関係を苦手とする学生への支援の実践	5	6.8	看護の実習指導場面で対人関係を苦手とする学生への支援 発達障害の学生には直接的に短く分かりやすい言葉で指導する
			指導の評価を行い次の指導に活かす	3	4.1	指導の評価を行い次の指導に活かす	3	4.1	学生との関わりを自己評価し、次の指導でいかせるようにしたい 自分の指導の振り返りをしてみようと思う			
			連携	8	11.0	教員と実習指導者、実習指導者とスタッフが連携して指導する	8	11.0	教員と実習指導者が目標や学生の情報、指導状況を共有し、連携して指導する	3	4.1	病棟の指導者の方への目標・学生情報の共有ができるように働きかける 学生一人ひとりの個性を実習指導者に伝えて学生の良い所、指導すべき事を情報共有して連携したい
実習指導者とスタッフが連携して指導する	5	6.8							実習が個々の学生の成長の場となるよう実習目標をスタッフ全員で共有し、指導する			
合計							73	100				

《実習指導方法》が最も多く47コード（64.4%）で、4つのカテゴリが抽出された。【意図的な発問を行い、学生の振り返りと経験の意味づけを支援し、学びにつなげる】20コード（27.4%）、【学生の意欲が向上し、実習が良い経験になるよう支援する】10コード（13.7%）、【学生の個別性に合わせた指導を行う】14コード（19.2%）、【指導評価を行い次の指導に活かす】3コード（4.1%）であった。

次いで《学生理解》18コード（24.7%）、【学生の思いや個々の状況を理解する】【学生の個性を理解し信頼関係を築く】の2カテゴリが抽出された。

《連携》は8コード（11.0%）で、【教員と実習指導者、実習指導者とスタッフが連携して指導する】の1カテゴリが抽出された。

6. 研修を受けて、これまでやってきたことで、これでいいんだと思えたこと（表7）

＜研修の効果＞とした「実習指導においてこれまでやってきたことで、本研修を受けてこれでいいん

だと思えたこと」では、56のコードが得られ、それらより8つのカテゴリと19のサブカテゴリが得られた。

《実習指導方法》が最も多く45コード（80.4%）で、6カテゴリが抽出された。【学生の出来ていることを肯定的にフィードバックする】18コード（32.1%）、【指導者から声をかけ学生の考えの表出を促す】は11コード（19.6%）、【学生と一緒にケアを行い振り返る】6コード（10.7%）、【特性がある学生への指導方法】5コード（8.9%）、【学生を見守り自身の課題に気づかせる】3コード（5.4%）、【指導者自身が看護観を伝える】2コード（3.6%）であった。

次いで、《学生理解》が8コード（14.3%）で、【学生の話をしっかり聞いて、思いや考えを引き出す】の1カテゴリであった。

《連携》は3コード（5.4%）で【指導者間で連携する】の1カテゴリであった。

7. もっと知りたい内容、新たな疑問（表8）

課題とした「もっと知りたい内容、新たな疑問」

表7 これまでやってきたことで、これでいいんだと思えたこと

領域	n	%	カテゴリ	n	%	サブカテゴリ	n	%	コード例			
学生理解	8	14.3	学生の話をしっかり聞いて、思いや考えを引き出す	8	14.3	学生の思いや考えをしっかり聞く	3	5.4	時間が許す限り、学生の話をしっかり聞くようにしていたこと			
							2	3.6	叱るときは頭ごなしに感情的になるのではなく、まず学生の思いを考えを聞くこと			
							3	5.4	まず学生の思いを聞くこと、このことは自分自身が指導の中で大事にしてきたところなので、今回の講義を受けてこれで良かったんだこれからも実践していこうと思いました			
実習指導方法	45	80.4	学生の出来ていることを肯定的にフィードバックする	18	32.1	学生の良いところを見つけ認める	2	3.6	学生がよいところや出来ていることを認める			
						12	21.4	学生の良いところやできていることをほめて伸ばす				
						学生をほめてやる気を高める	1	1.8	現場に出た際に厳しさを感じ、ギャップを与えてしまうため、厳しくした方がよいのか迷っていたが、今日の研修でほめてやる気スイッチを押してもらえる可能性が高いこと知り安心した			
						学生の良い所をコメントして返す	1	1.8	記録においても◎はなまるをつける。Good とかすばらしい!!とコメント			
						2	3.6	学生さんの記録に向き合い、丁寧にコメントしていきたい。				
						1	1.8	学生の考えや思いをひきだすこときくこと				
			指導者から声をかけ学生の考えの表出を促す	11	19.6	学生の考えや思いを引き出す	11	19.6	1	1.8	表出を手助けできる声かけ等の関わりは必要であると感じた	
									6	10.7	生徒に「どうだった?」「なんでそうなった?」とその時に聞いておりましたが、今日、「あ、良かったのか!」とあらためて思いました	
									1	1.8	言葉や感情を表出することが苦手な学生に対して、こちらから細かく質問していたが、自分の聞き方があっていないのが、質問攻めになってしまっていないか気になっていた	
									2	3.6	学生に厳しく言うよりは、優しく今まで通りの方法で接していこうと思いました	
			学生と一緒にケアを行い振り返る	6	10.7	ケアと一緒に振り返る	6	10.7	ケアと一緒に振り返る	2	3.6	ケアと一緒に参加(して振り返る)という事(は指導だけでなく信頼関係構築の上でも重要だったのだと感じました)
									1	1.8	実習終了後の振り返り方。1名の学生につき30~60分かけて、実習で一番印象に残った上手くいかなかった場面を想起し、それを実習期間中にどのように対応したのかを聞いています	
									1	1.8	一緒に改善策を考える	
									2	3.6	学生自身の思考のクセを一緒に考える	
									3	5.4	特性のある学生に対してゆっくり話を聞き、不安な気持や今の状況に寄り添えることができたこと	
									2	3.6	指導しにくいと感じる学生への指導方法	
									1	1.8	見守る姿勢	
									2	3.6	学生への指導のうち、課題の気づかせ方	
			特性がある学生への指導方法	5	8.9	特性がある学生への指導方法	5	8.9	1	1.8	看護を語る	
									1	1.8	看護を語る(行った行為の意味を)	
学生を見守り自身の課題に気づかせる	3	5.4	学生を見守り自身の課題に気づかせる	3	5.4	1	1.8	経験や看護観を伝える				
						1	1.8	臨床での体験や私の看護観について伝えている				
指導者自身が看護観を伝える	2	3.6	指導者自身が看護観を伝える	2	3.6	指導者と学生の情報を共有する	2	3.6	指導者さんとコミュニケーションをとり学生の情報を共有してきたこと			
						1	1.8	先輩教員の指導を参考にする				
連携	3	5.4	指導者間で連携する	3	5.4	先輩教員の指導を参考にする	1	1.8	最初から自身が持てない。指導や学生との関わりに不安があることは仕方がないと受け止めて、今回の研修や周りの先輩教員の指導などを参考にする			
合計							56	100				

表8 もっと知りたい内容、新たな疑問

領域	n	%	カテゴリ	n	%	コード例
理解生	1	10.0	学生の理解が進み身近に感じた	1	10.0	先生方の思いを知れたことで、また学生さんがわかりより近く感じることができた
実習指導方法	8	80.0	リフレクションの具体例など実践を目指した内容を学びたい	4	40.0	リフレクションスキルの実践シミュレーション等の学習、常にアセスメント、評価、計画はやっていたのだなと思った リフレクションの事例をゆくり見たい
			場面や学生に合わせた具体的な指導方法を学びたい	4	40.0	指導の具体的場面、どんな学生を特に気を付けて見ているのか参考にしたい 今の学生に対する指導方法
連携	1	10.0	実習指導者と教員の連携の具体的方法	1	10.0	実習指導者と学校教員が効果的な実習を行うための連携の仕方について具体的な方法について知りたい
合計				10	100	

では、10コードが得られ、それらより4つのカテゴリおよびサブカテゴリが得られた。《実習指導方法》が最も多く、8コード(80.0%)で、2つのカテゴリが抽出された。【リフレクションの具体例など実践を目指した内容を学びたい】4コード(40.0%)【場面や学生に合わせた具体的な指導方法を学びたい】4コード(40.0%)であった。《連携》は1コード(10.0%)で【実習指導者と教員の連携方法を知りたい】であった。《学生理解》は、

1コード(10.0%)で【学生の理解が進み身近に感じた】であった。

Ⅳ 考察

1. 本研修の有用性について

今回企画した研修は約4時間と短時間の研修であったが、86.6%の人が「80%以上理解できた」と回答し、活用可能性(「非常に活かせる」と「まあ活かせる」)も97.3%と高かったことから、有用であったといえる。

このように理解度や活用可能性が高くなった理由としては初心者のニーズをふまえて研修内容を構成した点にあると考える。また、理解度と活用可能性が高くなったことにより満足度も高くなった（「非常に満足」「満足」と回答した人は94.7%）と考える。

本研修の目的は「実習指導経験が浅い実習指導者あるいは教員が実習指導の重要性と方法を理解することができ、すぐに活用できる知識や技術を学ぶことで実習指導に対する意欲・関心を高めることができる」であるが、看護教育未経験者17名のうち13名（76.5%）が「教育に携わってみたい」と意欲・関心を高めていた。これらのことから、前述した本研修会の全体目標を達成することができたといえる。短時間研修であっても一定の効果を認めることができたといえる。

2. 講義ごとの目標達成度評価

本研修会および各講義における目標の達成について評価する。

1) 講義1「看護学臨地実習指導：基本のキ」の目標達成度評価

「実習指導者の必要性と実習指導の基本が理解できる」を目標とした講義1「看護学臨地実習指導の基本のキ」では、実習指導の基本となる学生理解を中心に構成した。

受講生のニーズ（表4）では《学生理解》が30コードと最も多かったが、【学生の思いや感情、特徴の理解に関する知識の獲得】（表5）、【学生との関係構築とその重要性に関する知識の獲得】（表5）、と、新たに《学生理解》に関する知識を獲得していた。また、【学生の思いや個々の状況を理解する】（表6）、【指導者から学生に話しかけ信頼関係を築く】（表6）の《学生理解》に関する指導を行いたいとしていたこと、自分がこれまで行っていた【学生の話をしっかり聞いて、思いや考えを引き出す】（表7）の《学生理解》に関する指導をこれでよいと自己承認していたことから、受講生は実習指導の基本である学生理解が進み、講義1の「実習指導者の必要性と実習指導の基本が理解できる」という目標を達成したと考えられる。

また、【学生とのコミュニケーション及び信頼関係構築に不安がある】（表4）の困難感を示しているが、【学生との関係構築とその重要性に関する知

識の獲得】（表5）の新たな知識を獲得し、【指導者から学生に話しかけ信頼関係を築く】を実習指導としてやってみたい（表6）としていたことから実習指導の基本である学生理解ができたと考えられる。

2) 講義2「リフレクションの重要性と効果が理解できる」の目標達成度評価

講義2「臨地実習における学生との対話のコツ―振り返りを促すリフレクションスキル―」では、「リフレクションの重要性と効果が理解できる。」と「リフレクションを意識した発問の方法が理解できる。」を目標とした。

受講生のニーズ（表4）では【指導方法や指導内容に自信がない】【効果的な振り返りができていない】が抽出されたが、【学生の振り返りを支援し、学びを深める指導方法に関する知識の獲得】30コード（表5）と多くの《実習指導方法》に関する新たな知識を獲得していたことに加え、【意図的な発問を行い、学生の振り返りと経験の意味づけを支援し、学びにつなげる】20コード（表6）をこれから実習指導として行いたいとしており、受講生は講義2の「リフレクションの重要性と効果が理解できる」と「リフレクションを意識した発問の方法が理解できる。」という目標を達成したと考えられる。さらに【指導者から声をかけ学生の考えの表出を促す】、【学生と一緒にケアを行い振り返る】（表7）とこれまで行っていた自分の指導をこれでよいと自己承認できていた。

【リフレクションの具体例など実践を目指した内容を学びたい】（表8）を示していることが課題ではあるが、短時間の研修では限界があるため、リフレクションの具体的例含む次の段階の研修を別に企画するなど対応が必要であると思われる。

3) 講義3「第一線の実習指導者から学ぶ実習指導のヒント」の目標達成度評価

講義3「第一線の実習指導者から学ぶ実習指導のヒント」では、ベテランの実習指導者の実践上の工夫を紹介すると同時に指導者である実習指導者と担当看護師や教員との連携や指導評価の重要性と方法について組み入れ構成した。目標は「実習指導における困難感解消の方法が理解できる。」「最近の学生の特徴が理解できる。」「実習指導の評価の必要性と方法が理解できる。」である。

【実習指導者と教員の連携の重要性に関する知識

の獲得】（表5）が抽出されたことに加えて、【教員と実習指導者、実習指導者とスタッフが連携して指導する】（表6）をこれから実習指導として行いたいとしていたこと、これまで行っていた【指導者間で連携する】（表7）をこれでよいと自己承認していたことから、受講生は指導者間の連携の重要性を理解しており、講義3の「実習指導における困難感解消の方法が理解できる」という目標の一部を達成したと考えられる。しかし、【実習指導者と教員の連携の具体的方法】（表8）をもっと知りたいとしていることから課題であると考えられる。

ベテラン看護師の工夫を一部紹介したが、受講生のニーズ（表4）で【様々な制約の中で、臨床と教育の連携を取る困難さ】12コード、【教員間の教育方針や内容の連携不足】4コード、【臨床指導者とスタッフの連携困難】2コードと多くの困難が示されていたことから、研修で得た実習指導方法に関する知識だけでは連携に関する困難を解消しきれないと感じていた可能性がある。これは、実践可能な連携の具体例を示すことができていなかったことが原因と考えられるため、連携に必要な日頃の心構えや連携する相手の強みや力量を理解すること等を講義に組み入れるべきであったと考えられる。

指導評価の重要性と実践に関することは、指導評価の重要性と具体的評価方法を講義に組み入れていたため、【指導評価とその重要性に関する知識の獲得】（表5）を得ており、【指導の評価を行い次の指導に活かす】（表6）をこれからやってみたいと示していたことから、講義3の目標である「実習指導の評価の必要性と方法が理解できる。」は達成したと言える。

4) 講義4「対人関係の構築を苦手とする学生への実習指導のポイント」の目標達成度評価

講義4では、「対人関係の構築を苦手とする学生への実習指導のポイント」では、「対人関係を苦手とする学生の特徴と合理的配慮が理解できる。」「実習指導における具体的な支援方法が理解できる。」を目標とした。

《実習指導方法》で【対人関係が苦手な学生への関わり方に関する知識の獲得】（表5）をしており、【学生の個別性に応じた指導を行う】（表6）をこれから実習指導としてやってみたいとしており、これまでやってきた【特性がある学生への指導方法】（表7）をこれでよいと自己承認していたこ

とから、講義4の「実習指導における具体的な支援方法が理解できる。」は達成したと考えられる。

合わせて、《学生理解》で【学生の思いや感情、特徴の理解に関する知識の獲得】（表5）をしており、【学生の特性や個々の状況を理解する】（表6）をやってみたいとしていることから、対人関係の構築を苦手とする学生理解ができたと考えられた。

3. 学生や指導に対する考え方の変化

1) 学生の捉え方の転換

本研修の受講生は日々の実習指導において30コード（47.6%）と多くの《学生理解》に関する困難を感じていた。これまでの実習指導で【限られた時間の中でアドバイスを伝えても指導が伝わらない】【学生のやる気がみえず、モチベーションが低い】（表4）と学生を捉えている様子が伺える。しかし、短期研修受講後は、新たに得た【学生の思いや感情、特徴の理解に関する知識の獲得】（表5）を基に学生に対する捉え方を改め、【学生の思いや個々の状況を理解する】（表6）、【学生との関係構築とその重要性に関する知識の獲得】（表5）を基に【指導者から学生に話しかけ信頼関係を築く】（表6）を実習指導としてこれからやってみたいこととしている。これらのことから、短期研修受講後に学生の捉え方の転換がみられた可能性があると考えられた。

2) 指導姿勢の転換

《実習指導方法》で【学生の振り返りを支援し、学びを深める指導方法に関する知識の獲得】【学生のやる気を高め、実習しやすい環境を作る方法に関する知識の獲得】（表5）をしており、【学生の出来ていることを肯定的にフィードバックする】（表6）と学生のできていない部分だけに目を向けず、できている部分に注目しフィードバックしたいと指導意欲を示している。また、指導者の考えを一方向的に伝え、指示や説明を行う指導者中心型の指導ではなく、【意図的な発問を行い、学生の振り返りと経験の意味づけを支援し、学びにつなげる】【学生の意欲が向上し、実習が良い経験になるよう支援する】（表6）などと学生を支援する学生中心型の指導への意欲を示しており、指導姿勢の転換が生じている様子が伺えた。

また、【対人関係が苦手な学生への関わり方に関

する知識の獲得】（表5）を【学生の個別性に応じた指導を行う】（表6）、【実習指導者と教員の連携の重要性に関する知識の獲得】（表5）を【指導の評価を行い次の指導に活かす】（表6）と指導に取り組む姿勢が転換している様子を示していた。

永田ら（2009）⁹⁾は、15時間の経験型臨地実習指導者研修会によって、受講者の学生理解や実習指導に対する認識の変化や指導姿勢の転換が生じることを明らかにしている。今回の研修でも同様の認識の変化や学生に対する捉え方や指導姿勢の転換が生じていることから、長時間の研修と同様の効果が現れていることがわかる。

本学の研修で生じた変化である「指導者自身の学生に対する捉え方や指導姿勢の転換」は岩井ら（2012）¹⁰⁾が明らかにした、看護学実習における指導プロセスの関連要素である【学習素材の情報化】を形成する〔経験を意味づける〕、〔思考の昇り下りを支援する〕、【指導観の意識化】を形成する〔主体性を引き出す〕、【対象理解の促進】を形成する〔気づきを促進する〕、【学習環境の調整】を形成する〔学生の状況を把握する〕などにつながる、指導プロセスを形成する重要な変化である。このことから、本研修は短時間の研修であっても実習指導の本質に迫る効果があったといえる。

4. 本研修の課題について

本研修により指導への意欲が向上したが、さらにもっと具体的な指導方法を学びたいという新たな課題が表出されている。具体的なリフレクシオンスキルや場面や学生に合わせた指導、臨床（実習指導者）と教員の連携方法などより具体的な指導方法を学びたいという受講生のニーズに対応するには短時間での研修では時間的限界がある。これらは次の指導者研修に向けての検討課題である。

短期研修でもっと知りたいという意欲が向上したタイミングで、リフレクシオンの具体例、連携の実際、個別指導例等を含む次のステップの研修を企画し、受講者のニーズに応えると指導者としての力量の向上が期待され、学生にとっての効果的な実習指導となる一助になるのではないかと考える。

5. 研究の限界

本研究は短期研修の直後の調査を基に評価したもので、比較対照群を置いていない。そのため、新た

に知ったことやこれからやってみたいこと、もっと知りたい内容等の質問に繰り返し答えることの影響を排除することはできない。また質問項目においてそれぞれ1項目で聞いており、細かな事項を尋ねたものでなかったという、自己評価である点で限界がある。また、募集に応じ研修を受講した対象者であったため、回答にあたってポジティブな反応を示した可能性が考えられる。

V 結論

今回企画した研修は約4時間と短時間の研修であったが、理解度、活用可能性ともに非常に高い研修会であったといえる。71の「新たな知識の獲得」、73の具体的な「これから実習指導としてやってみようと思うこと」の自由回答があり、56の「研修を受けてこれまでやってきたことでこれでいいんだと思えたこと」が示されていたことから、研修会の目標を達成することができ、一定の効果を認めることができたといえる。一方課題としてはリフレクシオン、連携、個別指導等の具体的な指導方法を示すことができなかった点があげられた。

謝辞

本研究の調査にご協力いただいた実習指導者の皆様、研究の実施にご協力いただきました方々に心より感謝申し上げます。

文献

- 1) 日本学術会議健康・生活科学委員会看護学分科会、報告、大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準 看護学分野、2017.9.29. (2022.6.27検索) <https://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-23-h170929-9.pdf>
- 2) 厚生労働省「看護師等養成所の運営に関する指導ガイドラインについて」の一部改正について、2020.10.30. (2022.6.27検索) <https://www.mhlw.go.jp/content/000936881.pdf>
- 3) 山田聡子、太田勝正：第1回臨地実習指導者の現状と課題、看護教育、54（7）、600-604、2013.
- 4) 伊良波理絵、嘉手刈英子：実習指導を始めた臨床看護師が感じた困難と対応、沖縄県立看護大学紀要、17、97-106、2016.

- 5) 細田泰子、山口明子：実習指導者の看護学実習における指導上の困難とその関連要因、日本看護研究学会雑誌、27（2）、67-75、2004.
- 6) 家入裕子、井上真奈美、佐々木満智子、田中愛子、丹佳子、中谷信江、張替直美、藤本美由紀：第一線の実習指導者から学ぶ！効果的な実習指導を行うためのヒント、2015.（2023.01.08検索）
https://static.yamaguchi-ebooks.jp/actibook_data/201806011630_KendaiKhokatekiHint/HTML5/pc.html#/page/1
- 7) 藤本美由紀、丹佳子、佐々木満智子、家入裕子、中谷信江、井上真奈美、田中愛子：実習指導担当看護師へのインタビューに基づいた臨床実習指導ガイドブック作成の試み、日本公衆衛生学会雑誌、62（10）、497、2015.
- 8) 吉兼伸子：発達障害傾向のある看護学生に対する実習指導のヒント、2020.（2023.01.06検索）
https://edu.career-tasu.jp/p/digital_pamph/frame.aspx?id=6699500-3-121&fl=0
- 9) 永田真弓、高島尚美、大賀明子、田中奈津子、西典子、平田明美、河原智江、内山繁樹、服部紀子、渡部節子、森山比路美、藤波富美子、野知由紀子、大門幸代：経験型臨地実習指導者研修会への参加による臨地実習教育に関する主体性の育成、横浜看護学雑誌 2（1）、41-47、2009.
- 10) 岩井真弓、内山久美、大井美樹、大坪昌喜、船越和美、大澤早苗：看護学実習における指導プロセスの関連要素：1996年から2009年の国内先行文献の分析、保健科学研究誌、（9）、15-28、2012.